



ボートレース事業はこんなに役立っています！

# 子育て環境の充実を図る「いづこも夢基金」を創設

市は、平成22年にモーターボート事業の繰入金金を基に、「いづこも夢基金」を創設しました。

これは、次世代を担う子どもたちの健やかな成長を願い、子どもたちの明るい未来を目指したまちづくりを推進し、子どもの健全育成や子育て環境の充実などを支援する事業に活用しています。

平成22年～23年度までに、基金へ3億円を積み立て、次の事業を実施しています。

## 【主な事業内容】

### 就学前児童子育て支援事業

保育所や幼稚園、認定こども園の第2子以降の保育料の全額支給。

### ワクチン接種事業

0～4歳の乳幼児を対象にヒブワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンの接種費用を全額助成。

### 思春期子宮頸がん予防対策事業

思春期にある中学生の性教育講演会の実施や中学1年生～高校1年生に相当する年齢の子宮頸がん予防ワクチン接種費用(3回分)の全額助成。



「就学前児童子育て支援事業」では、第2子以降の保育料が無料。



「ワクチン接種事業」乳幼児を対象にワクチンの接種費用を全額助成。

## 連載 Vol.5

大村市モーターボート  
競走事業  
管理者  
田中 克史



## ボートレース生誕60周年

今年、日本でボートレースが生誕して60周年になります。いわば還暦を迎えます。

60年前のわが国は、前号で紹介したように敗戦によって国土は焦土と化し、まちには失業者がふれ生活保護費の増高や雇用保険給付が国と地方の財政をひっ迫させていました。

一方、今日のわが国はモノは豊かで

すが、3・11東日本大震災、国と地方の借金で1,000兆円を超える深刻な財政危機、200万人を超える生活保護世帯、13年連続自殺者3万人超、無縁社会、格差問題など、阪神淡路大地震に続く大規模な自然災害の発生やこれまでの経済社会システムが機能不全に陥るなど明日への希望が見えない状況にあります。

こうして見ると60年前の世相と今日のわが国が置かれている状況は、似ているとは感じられませんか？

温故知新。このような時代だからこそ、わたくしたちが60年前に施行されたモーターボート競走法の精神をたずね、そこに今日的な意味を考へることは決して無駄ではないようです。

海洋国家としての海事思想の普及、観光振興、地方財政への寄与。この立法の精神は、今日のわたくしたちにとっても新しい課題でもあると思っております。

(つづく)

## 2月のレース開催日程

本場  
開催

1月29日～ 1日 公営レーシングプレス杯  
4日～ 8日 スポーツニッポン杯  
12日～16日 週刊実話杯  
26日～29日 新東通信カップ

場 外

9日～12日 GI 芦屋周年  
17日～19日 GI 住之江周年  
22日～26日 GI 常滑周年  
28日～31日 GI 多摩川女子王座決定戦  
※9・10・11・17・22～25日はブルドラ前売り場外で発売

ナイター

2・3・20・21日を除く全日  
ブルドラゴン、前売り場外発売所